

---

# リチュアとガスタと氷結界と

美平

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

リチュアとガスタと氷結界と

### 【Nコード】

N0224W

### 【作者名】

美平

### 【あらすじ】

高校二年の『蒼月 遊威』はデュエルが好きな普通の学生。ただひとと違うところは『昔からカードの精霊が見える』ことだ。三年前には精霊界も救った。そんな彼のもとに助けを求めに新しい精霊が来た。そして再び精霊界を救うために闇のゲームをしたり楽しく遊んだりライバル達と熱いデュエルを繰り返す。 (日常が多めなのでそんなに頻繁にデュエルの描写がありません)

## 始まり

遊威（俺は蒼月 遊威、高校2年生だ。）

双麻「俺の先行、ドロー！」

遊威（高校は至って普通の学校。生徒も、超能力が使えるわけでも、人間じゃない別の種族がいるってわけでも、全員武器を持って毎日戦争のような有様ってわけでもない。）

双麻「俺は魔法カード発動『魔導書整理』」

遊威（俺も普通の高校生だ。ただ一つを除けば……）

双麻「いよっし！次のターンで俺の勝ちだぜ！」

遊威（俺は昔からデュエルモンスターの精霊が見える。それに『見える』じゃなく『話せる』、最終的に『行ける』ようになった。）

双麻「カードを1枚セットしてエンドフェイズだ！」遊威（なもんだから3年前にデュエルモンスターズ界救ったことがある）

双麻「遊威、お前のターンだぞ？」

遊威「ん？ああ。ドロー」

遊威（いけね、今双麻とデュエルしてたんだっけ）

双麻「次のターン俺が勝つ！」

遊威（こいつは草松 双麻。俺の友達。戦略という言葉が全く似合わないが、ひきの良さはチート並だ。恐らくこのまま終われば、次のターンで1キルされる）

遊威「そうかよ」

遊威（さて、あいつのフィールドは）

双麻

LP 4000

場 魔法・罫 1枚

遊威「がら空きかよ」

双麻「次のターンで1キルだ！」遊威「はいはい。俺は手札から『邪神アバター』、『ダークネス・ネオスファイア』、『トラゴエディア』を墓地に送って、『モニタージユドラゴン』を召喚」

モニタージユドラゴン

ATK 9000

DEF 9000

双麻「何だと!？」

遊威「モニタージユドラゴンで直接攻撃」

双麻「ふっ、ならば速攻魔法発動『収縮』だ!これでモニタージユの攻撃力は…」

モニタージユドラゴン

ATK 4500

遊威「4500。俺の勝ちだ」

双麻「又ワアア!」

双麻  
LP  
0

勝者 遊威

遊威「これで俺の243勝3敗だ」

双麻「数えるなよ！」

遊威「3回も負けたからな」

双麻「そこにこだわるな」遊威「一応小、中と無敗だったからな。全国大会でも優勝したし、世界は行くのが面倒だから予選を勝って棄権した」

遊威（精霊界では魔轟神 レヴユ・ア・タンにも勝ったけど）

双麻「馬鹿なのか、お前は？」

遊威「お前に馬鹿と言われる日がくるとは」

双麻「まあいいけど。そういえばユーイ、お前DMGP出るのか？」

遊威「DMGP？」

双麻「知らないのか？『デュエル(D)モンスターズ(M)グランプリ(G)inパロット(P)』」

遊威「『パロット』って、俺達の行き着けのカードショップだろ？  
その大会か？」

双麻「そうだ。俺は出場するぞ！何でも優勝賞品はみたこともない  
ようなカード何だと！」

遊威「見たことないって、『シンクロ』じゃねえの？はたまた俺の  
好きな『融合』や『儀式』だったり」

双麻「まあ何にせよ出場する価値はあるぞ」

遊威「気がむいたらな」

俺はさつきまで双麻とデュエルしていた公園を後にして、借りてるアパートに帰って来た。デュエルディスクの普及と完成度は嬉しいが、かさ張るのが難点だ

ギイ、ギイ

うお、階段が軋んでる。部屋の中は綺麗でマンションと変わらないんだけどなあ

ギイ、ギイ

はあ、また一人寂しく『ただいま!』か。可愛い女の子が出迎えてくれたりしないかなあ。例えば……

ガン!

遊威「馬鹿言うな……。」

自分の想像に腹が立つ……

ガチャ



遊威「ただいま」

？「お帰りなさいご主人様」

？「お帰り主様」

遊威「え？」

始まり(後書き)

10/23日

修正

みんなちは

遊威（状況を整理しよう。俺はアパートに帰って来た。扉を開けた。今日の前には誰がいる？）

？「突然お邪魔してごめんなさい」

？「私達、お願いがあつて来たのです」

遊威「えつと…『リチュア・エリアル』と『ガスタの巫女 ウィンダ』だよね？」

エリアル「あつ、自己紹介まででしたが私達のこと知ってるんですね」

ウィンダ「すごいです主様」

遊威（うん、まあそれはデュエタやって二人のカードが手に入ってから『リチュア』『デッキと』『ガスタ』『デッキを創った程だからね）

遊威「それもそうだけど、お願いって何？」

遊威（あははっ、的なイベント発生かな？）

エリアル「えっと、簡単に言うと精霊界（私達の世界）を助けて下さい」

遊威（そんなことだろうと思ったさ。泣いてなんかないやい）

ウィンダ「私達はこのままではいけないと思い、この世界に助けを求めに来たのです」

エリアル「なので、私達と契約をして下さい」

遊威（！！？）

遊威「け、契約？」

ウィンダ「契約をして私達のマスターになって下さい」

エリアル「お願いします」

遊威「それは構わないけど、君達は『魔法使い族』だから契約つて……」

ウィンダ「あれ？知ってるんですか？」

遊威（それは前にも契約したことがあるからね）

遊威「『マスターとなる人間の魔力を取り込む事』、で『一般的には血取り入れる』。あってるよね？」

エリアル「すごい、あってますよ」

遊威「じゃ、早速契約しようか」

ウィンダ「精霊界の事とかは？」

遊威「契約してから聞くよ」

遊威（えーっと、『あれ』はどこだっけ。ああ、あったあった）

タンスの一番左の真ん中に入っていた氷のナイフを取り出す

エリアル「綺麗なナイフですね」

ウィンダ「宝石みたいです」

遊威「前に契約した時に使ったナイフだよ」

ツウー

右の人差し指の先を切った

遊威「どつちから契約する？」

ウィンダ「エリアルちゃんからでいいよ」

エリアル「ウィンダちゃんこそ先で……」

ウィンダ「いいからいいから」

エリアル「……それじゃあお願いします」

遊威「それじゃあ少し上向いて」

エリアル「はい」

右の人差し指をエリアルの口元にもっていく

遊威（ちよつと深く切りすぎたかな？やたら鼓動が早い）

エリアル「……ん」

遊威（上から血を垂らす。ただそれだけだぞ俺？何を興奮している）

その間に左の人差し指の先を切る

遊威「契約完了」

エリアル「ありがとうございます、ご主人様」

遊威（さっきもそう呼んでたな。『ご主人様』か……うん、落ち着

こう)

遊威「次はウィンダの番だよ」ウィンダ「はいっ」

遊威「それじゃあ上……」

かぷっ

遊威「はいっ？」

エリアル「／／／!?」

ウィンダが遊威の左手の人差し指を口に含んだ

ウィンダ「あるひはま、ひよへえひえいやふ(主様、これで契約完了ですよね?)」

遊威「え?あ、うん……」

エリアル「……／／／」



ウィンダ「あれ？エリアルちゃん、顔真っ赤ですよ？」

エリアル「ちょっ、ウィンダちゃん！何してるの!？」

ウィンダ「何って、契約ですよ？」

エリアル「え//!!?あ、そ、そうだね……//」

遊威（//……確かにいきなりで驚いた）

遊威「と、ところで、今精霊界で何が起きてるの？」

エリアル「そ、そうでした。まだ説明してませんでしたね」

ウィンダ「そうだったっけ？」

エリアル「まだ話してなかったよ」

遊威「俺の知る限りでは特に脅威となるようなことはないと思ったけど」

エリアル「実は……時空を越えて『インヴェルズ』と『魔轟神』が手を組んで暴れ回ったんです」

遊威「……あいつらが」

ウィンダ「そのせいで他の種族間でも問題が起こってしまい、私達の世界がめちゃくちゃになったの」

エリアル「ですから、今は種族同士の連携も取れずにいる為、侵略が進んでいるんです」

遊威「『種族』か……。ちなみにその種族って？」

エリアル「私の所属している『リチュア』とウィンダちゃんの所属している『ガスタ』、あとは『ジエムナイト』・『ラヴァル』・『ヴァイロン』と……」

ウィンダ「『霧の谷』・『フレムベル』・『ジュラシツク』・『ジエクス』・『ナチュル』・『ドラグニティー』・『AOJ』・『X-セイバー』です」

遊威（！？）

遊威「『ワーム』は？」

遊威（俺が聞きたいのはそっちじゃないけど）

ウィンダ「『ワーム』さん達は何匹かの生き残りは『魔轟神』さん達に従ってます」

遊威「……………じゃあ、『氷結界』は？」

エアリアル「……………『氷結界』は最後まで他の種族達と同盟を結ぼうとしていたのですが、今は結界の中に閉じこもっています」

あいつが……  
遊威

ウィンダ「『氷結界』に知り合いでも居るんです？」

遊威「うん、ちょっとね。それで、俺は何をすれば？」

エアリアル「『魔轟神』と『インヴェルズ』の同盟、『侵略魔轟』を倒してもらいたいのですが、『侵略魔轟』はこっちの世界に魔力エ

ナジーを集めて来ているんです。だから、こつちの世界で『侵略魔轟』のエナジー吸収を防いでもらえればいいんです」

ウィンダ「でも、『侵略魔轟』以外にもエナジーを集めているひと達もいるんですよ」遊威「他にも？」

ウィンダ「例えば、『闇の支配者』とか『三幻……』」

エアリアル「！！そっだ、ウィンダちゃん！確か私達……」

ウィンダ「！そっだよ！」

遊威「どうしたの、ふたりとも？」

エアリアル「とにかく早く逃げな……」

？「ふふふ、やっと見付けたぞ」

ウィンダ・エアリアル『！！』

遊威「？」

空間が歪み、中から何者かが出て来る

エリアル「……『三幻魔』の殉教者」

遊威「殉教者？ああ、あいつか」

ウィンダ「私達、こつちの世界にくる途中で見つかったんだっけ」

殉教者「そうだ。我が『三幻魔』様の殉教者。我が主を復活させる為、お前らのエナジーを頂く」

エリアル「……どうする、ウィンダちゃん？」

ウィンダ「デュエルするしかなさそうですけど……」

殉教者「ほほう？潔いな。ならば、我が主のイケニエとなるがよい！！」

遊威「待った。そのデュエル、俺が受けてもいいよな？」

エリアル「え？」

ウインダ「主様？」

殉教者「何だお前は？」

遊威「ふたりのマスターだよ。だから、俺が受けてたってやる」

殉教者「ふふふ、面白い。我以外はその小娘を見付けてないからな。エナジーを独り占めできるわい」

遊威（ほう！）

遊威「それで、どうするんだ？」

殉教者「いいだろう。ただし、負けたらお前のエナジーも頂くがな」

遊威「構わないよ」

殉教者「なら始めようか……………『闇のゲーム』を！！」

突然空間が黒い膜に覆われる

エリアル「気をつけて下さい！」

ウィンダ「『闇のゲーム』です！」

遊威「大丈夫だよ。安心して観てて」

## みんなちは（後書き）

エリアル「それでは、今回の最強カードの紹介をします」

ウィンダ「でも、今回はデュエルしていないから前回の最強カードです」

『モンスタージユドラゴン』

遊威「手札のモンスターカード三枚を墓地に送ってそのモンスターのレベル×300の攻守になるカードだ。ハイビートデッキや特殊召喚でのみ召喚できるようなカードを多用するデッキと相性が良いな」

エリアル「……………」

遊威「どうした？エリアル」

エリアル「いえ…………ご主人様がモンスタージユドラゴンのコストで墓地に送ったカードも、十分に最強カードの候補ですよ？」「ウィンダ」「ネオスファイア」に『トラゴエディア』に『アバター』、一見ラスボスのデッキかと思う程です」



遊威「たしかにそうだな。まあネオスファイアもトラゴも、相手が戦闘を行うことによって特殊召喚できるから普通に入れておいても活躍できるさ」

エリアル「そうですね。それではこの辺で」

ウィンダ「次回予告です」

次回

殉教者「主、復活の時です!!」

遊威「やっぱりか……」

自分の主をだしてきた殉教者

殉教者「サレンダーすれば、お前だけ助けてやる」

遊威「後悔しろ!!」

遊威は勝てるのか？

エリアル「私達のマスターでいてくれますか？」

遊威「無理」その言葉の意味は？

次回、『遊威対殉教者 限界突破と混沌の力』

10/23日

修正

遊威対殉教者 限界突破と混沌の力

殉教者「さあ、我が力のまえに恐れ平伏すがいい！」

遊威「手加減なんかしない。全力をだしてお互いに悔いの無い闘いにしよう」

『デュエル!!』

殉教者「先行はもらっつ、ドロ。我はカードを4枚セットしてエンドフェイズだ」

殉教者

LP 4000

手札 2枚

場

魔法・罫 4枚

遊威（リバーズカードが4枚……そのうち3枚はブラフ）

遊威「ドローカード、俺はシュレッダーを召喚」

シュレッダー

ATK 1600  
DEF 1000

遊威「更に、カードを3枚セットしてバトルフェイズ。シュレッダーで直接攻撃！」

殉教者「畏発動『くず鉄のかかし』。このカードは相手の攻撃を防ぎ、その後セットされる」

遊威（ちっ、『くず鉄のかかし』か……………また厄介なカードだ）

遊威「バトルフェイズを終了してエンドだ」

遊威

LP 4000

手札 2枚

場 モンスター

シュレッダー

魔法・罫 3枚

ウィンダ「またセットされるなんてずるいです」

エリアル「でも、まだご主人様のライフは無傷。このままだったら

……………」

殉教者「ふふふ、今のターンで我を倒せなかったことを後悔するが  
いい。ドロー！」

遊威（来るか！）

殉教者「畏発動『最終突撃命令』、『龍の逆鱗』、『バベル・タワー』。そして3枚の畏をリリースする。いでよ！『神炎皇ウリア』  
！」

ウリア「ゲワアアア！！！」

神炎皇ウリア

ATK 0

DEF 0

エリアル「攻撃力が0？」

遊威「いや、3000だ」

殉教者「効果はもう知っていたのか？なら話しは早い。ウリアは墓地にある永続畏の数×1000だ」

神炎皇ウリア

ATK 3000

DEF 3000

殉教者「そして1ターンに1度、相手フィールドにセットしてある魔法・罫を1枚破壊する。『サポート・ディストラクション』！」

遊威

魔法・罫 セット 破壊

遊威「くっ！」

殉教者「そして我は手札から『天よりの宝札』を発動」

ウインダ「あれは！手札が6枚になるようにドロウするカードですよ！」

遊威「そっちの効果か」

殉教者「ふははは、みるがいい！我は手札から『凡骨の意地』『カード・トレーダー』『エクトプラズマー』を発動！」

遊威（『魔法効果の矢』があれば！）

殉教者「我は3枚の永続魔法をリリース。顕れろ、『降雷皇ハモン』！」

ハモン「キシヤアア！」

降雷皇ハモン

ATK 4000

DEF 4000

エリアル「攻撃力が3000と4000のモンスター……」

ウィンダ「主様がピンチです」

遊威（あいつの手札はあと2枚。おそらく……）

殉教者「我は魔法カード『幻魔の殉教者』を発動。そして殉教者トーンをリリースする。主、復活の時です！！『幻魔皇ラビエル』様！！！」

ラビエル「グルウウア！」

幻魔皇ラビエル

ATK 4000

DEF 4000

遊威（1ターンで三幻魔をだすとは……）

殉教者「おお！我が主、お久しぶりにございます」

ラビエル「ふむ、よくやったぞ」

殉教者「ありがたきお言葉」

ラビエル「あの精霊、エネルギーが濃いな。あれだけあれば我ぐらいは復活できるだろう」

殉教者「我が主よ、そのためにもエネルギーを吸収するお力をお貸し下さい」

ラビエル「良いだろう。ウリア、ハモン」

ウリア「承知」



ハモン「了解」

遊威「おいおい……」

殉教者「我はフィールドの『神炎皇ウリア』『降雷皇ハモン』『幻魔皇ラビエル』をゲームから除外。御力を！『混沌幻魔アーミタイル』！！」

混沌幻魔アーミタイル

ATK 0

DEF 0

アーミタイル「アアアアア！！！」

エリアル「ひっ！」

ウィンダ「嫌な感じです！」

遊威「混沌幻魔まで！」

殉教者「バトル！アーミタイル様で、攻撃」

エリアル「でも、攻撃力は0ですよ」

殉教者「アーミタイル様の効果！バトルフェイズ中、攻撃力は10000ポイントアップ！『虚無幻影羅生門』！！」

ウインダ「い、10000ポイント！？」

エリアル「ご主人様！」

遊威「速攻魔法発動『リミッター解除』」

シュレッダー

ATK 3200

遊威「更にもう1枚『リミッター解除』発動！」

シュレッダー

ATK 6400

殉教者「無駄だ！！」

シュレッダー 破壊

シュレッダー を破壊した黒い霧が遊威を包む

遊威「くっ、ぐわあああ!!」

エリアル「ご主人様!!」

ウインダ「主様!!」

遊威

LP 600

遊威「はあ、はあ」

ドサッ

遊威（くっ、久しぶりにとんでもないダメージを喰らった。にしても、なんつー、痛みだよ）

アーミタイル「痛いか？苦しいか？」

遊威「……………はっ」

アーミタイル「お前にその痛みを与えているのはその精霊だぞ？」

遊威「だつたらなんだ？」

殉教者「サレンダーすればお前だけは見逃してやる、ということだ」

エリアル・ウインダ『!!』

アーミタイル「お前程度のエナジーが無くとも我が復活できる量は、その精霊達にはあるようだからな」

遊威「ふっ、俺程度か……………まあ……………」

エリアル「……………」（こくっ）

ウインダ「……………」（こくっ）

エリアル「ご主人様……」

ウィンダ「私達を……」

遊威「断るさ」

エリアル「えっ？」

ウィンダ「どうして？」

アーミタイル「ほう？」

遊威「俺はまだ、負けてない。ライフもあるしカードもある。まだ、なんにも終わってねえよ」

エリアル「ご主人様……」

ウィンダ「主様……」

殉教者「ならばラストターンを楽しむがいい。エンドフェイズ」

殉教者

LP 4000

場 モンスター

混沌幻魔アーミタイル

遊威「ああ。ラストターンさ。お前に次は回ってこない。俺のターン、ドロー!!!」

遊威

遊威「なあ？デステイニードローって信じるか？」

殉教者「なんだ突然」

遊威「今引いたカードだ。おれは『未来融合 フューチャーフュージョン』を発動！デッキから『サイバードラゴン・ツヴァイ』『古代の歯車』を3枚ずつ、『サイバー・ヴァリー』を2枚、『サイバー・ダーク・ホーン』『サイバー・ダーク・エッジ』『サイバー・ダーク・キール』『サイバー・ドラゴン』を墓地に送る」

アーミタイル「『未来融合』か。だがその効果で召喚されるのは2ターン後だ。このターンには召喚できない」

殉教者「2ターンも耐えられると思っているのか？」

遊威「更に！『オーバーロードフュージョン』を発動！！」

殉教者「！？」

アーミタイル「そのカードは！」

遊威「俺は墓地に眠る13体の機械族モンスターをゲームから除外  
！」

殉教者「13体！？」

遊威「数多の機械達よ、その力を一つに最大の脅威をしめせ！来い、  
『キメラテック・オーバー・ドラゴン』」

キメラテック『ギヤアアア！！！！』

キメラテック・オーバー・ドラゴン

ATK 10400

DEF 10400

エリアル「攻撃力10400……」

ウィンダ「すごい、です！」

遊威「バトル！キメラテック・オーバー・ドラゴンで混沌幻魔アーマイルに攻撃『エターナルバースト』……！」

殉教者「畏発動『くず鉄のかかし』！相手の攻撃を無効にし、再びセットされる」

エリアル「そうだった」

ウィンダ「あのカードをなんとかしないと……」

殉教者「それにアーマイル様は戦闘では破壊されん！私の勝ちだ……！」

遊威「何言ってるんだ、まだ俺のバトルフェイズは終了して無いぜ？」

殉教者「どういふことだ!？」



遊威「『キメラテック・オーバー・ドラゴン』は融合素材に使用したモンスターの数だけ攻撃が出来るんだ。だから俺はあと12回攻撃が残ってる」

アーミタイル「何だと!？」

遊威「殉教者、アーミタイル。エリアルとウインダをお前達の糧としようとした事を後悔しろ!!」  
トウエルブ・エターナルフルバースト「!!」

アーミタイル「ぐわああ!」

殉教者「こんなはずではああ!」

殉教者

L P O

遊威「俺の力が無くても、か。俺の力なら、三幻魔全員を復活させられるぜ」

勝者 蒼月 遊威

遊威「ふう」

パラパラ

殉教者のデッキの一番上のカードがおちる

遊威………

ぴらっ

『炸裂装甲』

遊威（結構危なかったな………）

エリアル「ご主人様！大丈夫ですか！」

ウィングダ「主様！怪我とかしてません！」

遊威「大丈夫大丈夫。それに怪我もしてない」

ウィングダ「よかったです」

遊威「心配かけたね、二人とも」

エリアル「……………」

遊威「どうした、エリアル？」

エリアル「…………ご主人様、闇のゲームは危険な勝負です。負けたら、命だってどうなるかわかりません。それでも、私達のマスターになつてくれますか？」

ウィンダ「エリアルちゃん……………」

遊威「無理」

エリアル「…………っ」

遊威「だって俺はもう二人のマスターなんだから、今からなるのは無理だよ」

エリアル「えっ？」

ウィンダ「というと……」

遊威「もちろん、俺は二人のマスターだよ」

エリアル「ご主人様……」

ウィンダ「主様……」

エリアル・ウィンダ『よろしくお願いします！！』

だきっ

遊威「おっと」

遊威対殉教者 限界突破と混沌の力（後書き）

エリアル「今回の」

ウィンダ「最強カードは」

『キメラテック・オーバードラゴン』

遊威「『サイバードラゴン』と機械族何体でもと融合可能な融合モンスターだ。今の時代じゃあんまり使ってるやつはいないだろうけど、融合素材一体につき800ポイント上昇だ。昔はロマンを求めて110枚で融合させたりなんかしたっけなあ」

エリアル「110枚融合って……」

ウィンダ「『アーミタイル』が選ばれなかったのって、やっぱりあれなんです？」

遊威「もちろん。OCGの……ってというか普通の場合は『自分のターンのみ10000ポイント』だからな。確かアニメの方の効果と同じだったと思う」

ウィンダ「今のところ主様が使ったカードしか紹介してないから、

『主様の使った最強カード』って思われるかもしれないです」

遊威「そういえばそうだな。まあ次は俺以外の奴のカードになるかもしれないから、楽しみに待っていてくれよ」

エリアル「それじゃあ次回予告」

双麻「ユーイ、明日お前に話さなきゃいけないことがある」

遊威「話したい、の間違いだろ？」

双麻の話したいことは？

双麻「デュエルしようぜ」

遊威「……何かあるな」

双麻「秘策がな」

それは新しい進化

双麻「2体のモンスターで……」

次回、「新しい進化の形」

## 一休み

遊威「そういえば聞こうと思っただけだよ」

エリアル「何ですか、ご主人様？」

遊威「俺のところに来たのはなんで？」

ウィンダ「なんとなく私達の主様になってくれるような気がしたんです」

エリアル「それに『リチュア』と『ガスタ』のカードを使っている人ってほとんどいないのに、両方を使っているからですね」

遊威「そうか……。二人一緒なのは？」

エリアル「それは私達が友達だからですよ」

ウィンダ「ね、エリアルちゃん。本当は私達敵対してるから会っちゃいけないんです」



遊威（敵対？）

エリアル「だから誰にも見られなくなかったんですけど、さっきの殉教者に見付かっちゃって……」

遊威「ああ、それで……」

エリアル「はい……」

遊威「まあでも、さっきのあいつの口ぶりからすると誰にも気づかれてないね」

ウィンダ「とりあえずは安心です」

遊威「それなら良かった。でも、確か『ガスタ』と『リチュア』って同盟結んだんでしょ？」

エリアル「『氷結界』の仲介で結んだので今ではあんまり効果がないんです」

遊威「『氷結界』、か……」

エリアル「『氷結界』にはちょっと前にとても強いひとが現れて、そのおかげで『魔轟神』を倒せたらしいんですよ」

遊威「へえ……」

ウィンダ「そのひとが『ガスタ』と『リチュア』の同盟を結んでくれたんです」

エリアル「でも、ある日突然居なくなっちゃったって言ってました」

遊威「そう……なんだ」

エリアル「その人がいてくれれば、『魔轟神』の方だけでもなんとかなるんですけど……」

遊威「……」

エリアル「あつても、ご主人様がいてくれれば安心ですよ」

遊威「そう？」

エリアル「はいっ。あの三幻魔を倒すなんてすごいことなんですか

ら

遊威「確かにこっちの世界じゃ俺ぐらいしか持ってないだろうけど  
さ」

遊威「それならよかった。力になれるみたいで」

ウィンダ「ふわぁー、何だか私眠くなっちゃったです」

エリアル「もう、ウィンダちゃんてばっ」

遊威「あはは、まあこっちに来るまで気を張ってたんでしょ？ ゆっ  
くり休みなよ」

ウィンダ「ありがとうございます」

遊威「隣の部屋にベッドが二つあるからゆっくり休んで」

エリアル「え、でもご主人様は？」

遊威「俺はいつもソファで寝てるから心配しなくても大丈夫だよ」

エリアル「わかりました。それでは、おやすみなさい」ご主人様

ウィンダ「おやすみです」

遊威「うん、おやすみ」

ぱた

遊威（……久しぶりに行ってみるか）

遊威「ミミック、なんかあったら喚んでくれ」

ミミック「ああ、わかった」

空中に箱の様な物体が現れた

ミミック「どこ行くんだ？」

遊威「ん？氷結界」

一休み（後書き）

遊威「えー、前回の次回予告と話が違っていますが、この話とこの次の話は予告の話の前座みたいな話です」

ミミック「何を言ってるんだユーイ？」

遊威「補足だ。いきなり根本のプロットを変更して、その時に直し忘れたらしいからな」

ミミック「……よくわからん」

遊威「そつだ。ミミック、この後尺余ってるからお前を紹介するか」

ミミック「ん？紹介？」

遊威「それじゃあいつてみよう」

『暗黒のミミック LV1』

遊威「リバーズ効果で、カードを1枚ドロワーできる。自分のスタン

バイフェイズ時に表側表示のこのカードをリリースしてデッキから『暗黒のミミックLV3』を特殊召喚できる。ってかんじだ」

ミミック「……自分で言うのもなんだが、ほとんど1：1交換のよ  
うなものだぞ？それなら別のカードを採用した方が……」

遊威「ドロー交換と低レベル、その2点だけでも頼れるさ。ドロー  
効果でゴーズやバトフェ引いたり、シンクロ時のレベル調整したり、  
な」

ミミック「確かに過労死並に毎回だしてるな」

遊威「それじゃあまた」

## 氷の玉座に王は帰る

ここは氷結界の門

そこにフードを深く被った者が来た

御庭番「む、誰だ？こんな夜中に怪しいやつめ！」

？「おう、よかった」

御庭番「貴様、どこの種族だ？」

？「どじって……まあ言っとすれば氷結界？」

御庭番「何だと？」

？「というか、俺だよ俺」

パサッ

男はフードをとった

御庭番「あ、貴方様は！？。ロ、ロイヤルナイト様ー！」

ロイヤルナイト「何だ、騒々しいぞこんな夜中に」

御庭番「王が、王が帰って参りました！！」

ロイヤルナイト「何だと！？」

王「おう、久しぶりだなロイヤルナイト」

ロイヤルナイト「お、王！！し、失礼ですが確認を……」

スチャ

王と呼ばれた男は一本のナイフを見せた

王「これでいいか？」



ロイヤルナイト「お帰りなさいませ、王様！」

御庭番「みんな！王様がお帰りになられたぞー！」

決起隊「なんと！」

舞姫「王が!？」

王「騒ぐなって、真夜中なんだからよ」

軍師「待ちわびましたぞ、王よ」

王「悪かったな、長い事留守にしちまって」

御庭番「魔轟神との戦い以来、帰られなかったのでどうしてしまわれたのかと……」

王「俺にもいろいろあったんだよ。ところで軍師、『侵略魔轟』はどの辺りまで来ているんだ？」

軍師「はっ！今は主に生き残った『ワーム』達が進出してきました。ですが我が領域にはまだ一歩も……」

王「違う。ここじゃなくて他の場所だ」

軍師「他ですか？」

王「そうだ」

軍師「一番侵略されているのは『霧の谷』が一番ひどく、半分程は侵略されて……」

王「わかった、『霧の谷』だな」

カツカツ

武士「王様、どこへ？」

王「地下封印所」

カツカツ

カツカツ

王「着いた」

そこには三本の槍が地面に突き刺さっていた

槍の後ろには氷の球体の様な物がある

男は一番左の槍のところに向かい歩いている

すると、どこからか声が聞こえてきた

？「ん、ユーイ？」

王「ああ、三年ぶりだなブリューナク」

ブリューナク「全く、三年もどこ行ってたの？僕達をおいてさ」

王「悪い悪い。それよりも、『霧の谷』に行かないか？」

ブリューナク「デュエルするの？」

王「ああ。久しぶりにお前をつかおうと思ってた」

ブリューナク「ホント！ありがとう、ユーイ」

王「それじゃあ行くぜ」

男はその槍を引き抜いた

パラパラ

すると、槍の後ろの球体が龍の形になる

ブリューナク「早く行こうよ」

王「わかったわかった」

## 氷の玉座に王は帰る（後書き）

王「はっはっは！どうも、氷結の王だ」

ブリュ「えーっと、カードを紹介しようにもデュエルはおろかカードすらでてきてないので紹介ができません」

王「お前でもいいんだが、後々紹介するから楽しみに待っていてくれ」

## 日常風景

エリアル「ん、あれ？もう朝かな？」

戸を開ける

遊威「おはよう、エリアル」

ソファアの奥から声が聞こえる

エリアル「あ、おはようございますご主人様」

遊威「早いね」

エリアル「私は早起してますから」

遊威「そうなんだ。ウィンダはまだ寝てる？」

エリアル「はい、まだ寝ています」

遊威「じゃあ先に風呂でも入ってなよ」

エリアル「はい」

パタパタ

遊威「後どれくらいかな……っっていうかまだ六時回ったばかりか」

遊威（昨日はちょっと夜更かししてたから眠いな……）

ミミック「どうだったのだ？」

遊威「何が？」

ミミック「氷結界で何して来たかだ」

遊威「ああ。ちよいと『霧の谷』の領地をワームから奪い返してきた」

ミミック「いきなりとんでもないな」

遊威「おかげでほとんど寝てないんだぜ？」

ミミック「そうか。というか用が無いなら帰るぞ？」

遊威「ああ、ありがとな」

ヒュウ

遊威（さて、エリアルも出て来るまで時間かかるだろうしちよいと見てくるかな）

遊威「よっと」

遊威（ん？何処だここ？）

周りには見渡す限りの草原が広がってる

遊威（草原……ってことはナチュラルか？）



？「おや？珍しい。客人が来るなんてな」

後ろを振り向く

遊威「ああ……『ナチュラル・ガオドレイク』か」

ガオドレイク「私を知っているのです？」

遊威「俺は『氷結界』の者だ」

ガオドレイク「『氷結界』の方だったか。それで、此処へは何用かな？」

遊威「間違つて来たんだが、ちょうどよかった」

カシヤ

デュエルディスクを構える

遊威「ワームだな？」

ガオドレイク「……」

グニユ

ガオドレイクの体がゲル状になり小さくなっていく

ヤガン「ひひっ、どうしてわかった？」

遊威「ここは『霧の谷』だ。『ナチュル』の奴らがいるわけないだ  
ろ」

ヤガン「鋭いな。ならば生かして帰す訳にはいかないだ！」

遊威「最初からそのつもりだ！」

『デュエル！』

ヤガン「先行はもらった！ドロー。俺は『ワーム・ヤガン』を召喚。  
ヤガンの効果で『ワーム・ゼクス』を墓地へ」

遊威「そして墓地のゼクスの効果で裏側蘇生、か」

ヤガン「知っているなら話が早い。『ワーム・ゼクス』を裏守備で蘇生。カードを1枚セットしてターンエンドだ」

遊威「さて、俺は魔法カード『氷結界の三方陣』を発動。ヤガンを破壊して『氷結界の軍師』を特殊召喚。さらに二枚目の三方陣。セツトカードを破壊して『氷結界の水影』を特殊召喚」

ヤガン「ぬっ！」

遊威「レベル4の軍師にレベル2の水影をチューニング！」

『絶対零度の神槍』

『進む道を切り開き、凍てつく風となれ』

ヤガン「シンクロか……」

ヤガン（だが我には『オネスト』がある。如何なるモンスターでも対処可能だ）

遊威「シンクロ召喚。薙ぎ払え、『氷結界の龍 ブリューナク』！」

ヤガン「っ！？氷結の龍だとっ！！！」

遊威「『サルベージ』発動。手札一枚をコストでゼクスを手札へ」

イリダン「何！？」

遊威「『氷結界の舞姫』を召喚。二体で直接攻撃」

ヤガン「ぐああああ！！！」

勝者 蒼月 遊威

遊威「時間も潰せただろ」

遊威（どのくらい時間経ったかな……って、3 / 4分か）

エリアル「ご主人様ー。ちょっといいですか？」

風呂場から声が聞こえる

遊威「ん？何かあった？」

風呂場の扉の前に行く

遊威（いや、開けないよ！？）

遊威「どうしたの？」

エリアル「私着替えを持ってきて無かったんです。なので何か服を貸してもらえますか？」

遊威「あー、確かに。ならタオルが置いてあるところの後ろに青い棚があるでしょ」

エリアル「えーと……あ！ありました」

遊威「その中の服を着ていいよ」

エリアル「ありがとうございます」

リビングに戻る

遊威（さすがにあのまま扉の前で待ってるわけにはいかないからな）

遊威「……まだか。仕方ない。デッキをいじるか」

パタッ

ウィンダ「むにゅー、主様おはよう」

遊威「あ、おはようウィンダ。もう起きたの？」

ウィンダ「まだ眠いですけど、エリアルちゃんがいつも早く起きるから……」

遊威「あはは……」

ウィンダ「そういうえばエリアルちゃんは？」

遊威「今風呂入ってるよ」

ウィンダ「そうですか。ところで主様、覗いたりしないんです？」

パラパラパラ

カードが落ちる音がする

遊威「……え？」

ウィンダ「だって可愛い女の子がお風呂に入ってるんですよ？覗いてみたいと思わないんです？」

遊威（それは激しくそうだけど！）

遊威「恥ずかしがる顔を見てみた……じゃなかった、嫌がる事を無理矢理するのはダメでしょう？」

ウィンダ「あゝ、確かにエリアルちゃんはすごく恥ずかしがると思います」

遊威「だよね？」

カードを集めながら言う

ウィンダ「私は恥ずかしくも嫌でもないけど……」

パラパラ

遊威「……………そうなの？」

ウィンダ「はい！」

パタン

エリアル「ありがとうございましたよ？」

遊威「あ、おかえり。じゃあウィンダも入ってきなよ」

ウィンダ「はい！」



パタパタ

遊威（……何だったのだろうかいまのは？）

エリアル「さっぱりしました」

遊威「それはよかった。それに、よく似合ってる」

エリアル「そ、そうですか／＼／？」

遊威「すごく可愛いよ」

エリアル「ありがとうございます……／＼／」

遊威「ふふふっ」

エリアル「と、ところで何してたんですか？」

遊威「ちょっとデッキの調整してたところ」

エリアル「へえー……いつぱいデッキがありますね」

遊威「『サイバーフュージョン』、『エクストラ』、『スキルバーン』に『リチュア』、『ガスタ』。他にも3つ程あるよ」

エリアル「そんなに持つてるんですか」

遊威「相手によってつかいわけたり、ギミックの試作してるからね」

エリアル「ご主人様が一番つかってるデッキって、やっぱり『サイバーフュージョン』ですか？」

遊威「そんなことないよ。あのデッキはあんまりつかわない方。相手を選ばずにつかえる『闇ビート』が多いかな」

エリアル「『闇ビート』……っていつと？」

遊威「まあ悪魔を中心とした闇属性のビートダウン特化デッキ」

エリアル「一番つかいやすい、ってそういう意味ですか」

遊威「もちろん『リチュア』や『ガスタ』も使ってるよ」

エリアル「私達も？」

遊威「当然。その二つのデッキで負けたことはないよ。それに決まって勝つときってふたりが来る時だし」

エリアル「そうなんですか」

ウインダ「主様」

遊威「ん、な…」

パタ

ウインダ「シャンプーってどれ…」

遊威「／／／！？」

エリアル「ウィンダちゃん／＼／＼！何してるの！」

ウィンダ「え？何って、シャンプーがわからなかったから」

エリアル「せめてタオルぐらい巻いてきなさい！」

ウィンダ「巻かなくても他には主様しかいないから大丈夫」

エリアル「……／＼／＼、それでも巻いてくるの！」

遊威「エ、エリアル。一緒に行つて教えてあげてくれ／＼／＼ついでに服の場所も、あつウィンダのは緑の方ね」

エリアル「わかりました／＼／＼行くよ、ウィンダちゃん」

パタっ

遊威「……………」

「私は恥ずかしくも嫌でもないですけど」

遊威「……だからってホントにやらなくても」

ピロピロピロピーン、ピロピロピロピーン、ピロ…

遊威「おっと、電話だな」

着信音はライフがゼロになった時の音だぜ

ピッ

『よお遊威』

遊威「なんだよ双麻。今日は学校はないだろ？」

双麻『だから電話したんだよ。今暇だろ？』

遊威「生憎と忙しいんだよ俺は」

双麻『ふっふっふ……』

遊威「なんだよ？」

双麻「遊威よ！俺はデュエリストとして次のレベルに進んだぞ！！」

遊威「はいはい、そうかよ。じゃあな」

双麻「待ってくれ！！まだ話は終わってない」

遊威「手短にな」

双麻「聞いて驚け、なんとっ！！」

遊威「精霊が来たとか言うなよ」

双麻「！！！！？まさか、お前の所にもっ！！？」

遊威「つかお前に前話したよな？昔から精霊が見えるって」

双麻「冗談じゃなかったのか！あれは」

遊威「そんなことで嘘ついてどっつする」

双麻『まあいいや。おい、デューエルしろよ』

遊威「電話でか？」

双麻『んなわけないだろ！』

日常風景（後書き）

遊威「早くまともにデュエルがしたい……」



## 遊威VS双麻 構築！オーバーレイネットワーク

遊威「と、いうわけで俺の友達の所にも精霊が来たらしい」

お風呂騒動と食事を終わらせて、二人に双麻からの話を説明する

ウィンダ「他の精霊が主様のお友達のところ？」

遊威「多分そうだと思う。一応念のために聞いておくけど心当たりってある？」

エリアル「心当たり……ですか」

ウィンダ「その人って、どんなデッキです？」

遊威「んー、普段は装備魔法をフル活用したデッキだけど、マジの時は炎属デッキだったな」

ウィンダ「あー……」

エリアル「炎といえばあの人だよね？」

ウィンダ「そうだと思う」

遊威「信用……まではいかなくても敵じゃない？」

エリアル「予想通りの人なら知り合いです」

ウィンダ「こつちの世界に来てまた会えるかもだね」

エリアル「そうだった。確かこつちに来るってあいさつしに行ったな」

遊威「敵じゃないならよかった」

ピンポーン

遊威「来た来た」

ガチャ

遊威「はい」

双麻「邪魔するぜ」

?「おじやまします」

遊威「その娘が精霊か」

ソーサラー「初めまして、『ファイヤーソーサラー』です」

ウィンダ「あっ、やっぱりソーサラーさんです」

エリアル「また会えて嬉しいですよ」

ソーサラー「あら、二人とも久しぶり」

双麻「その二人がお前の……」

遊威「『ガスタの巫女 ウィンダ』と『リチュア・エリアル』だ」

ウィンダ「はじめまして」

エリアル「どうも」

双麻「俺は『草松 双麻』だ。遊威の友達でライバルかな。よろしく」

遊威「ああそうだ、俺も自己紹介か。『蒼月 遊威』。ソーマからはユーイって呼ばれてる、って感じたな。よろしくね」

双麻「さてと、遊威。電話で伝えた通りだがデュエルしようぜ」

遊威「別に構わないけど何か考えでもあるのか？」

双麻「ふっふっふ、それは見てのお楽しみってやつだ」

遊威「まあいいけどよ。じゃあ外行くか」

双麻「もちろんだ。デュエルディスク着けないと気分が乗らない」

エリアル「何処でするんですか？」

遊威「そうだな……裏の公園にするか」

双麻「よし、なら先に行って待ってるぞ」

ソーサラー「双麻、デッキの確認した？」

双麻「ああ、ばっちしだ」

パタン

遊威「デッキどうすっかな……」

エリアル「さっき調整してましたよね」

遊威「そうなんだよな。今使えるのが『エクストラ』だけというね」

エリアル「『エクストラ』？」

遊威「その名の通りエクストラデッキをフル活用のデッキさ」

エリアル「融合とシンクロですね」

遊威「後儀式も多少入ってるよ、ってウィングダが居ない……」

エリアル「もう先に行っちゃったみたい」

遊威「おっと、じゃあ早く行かないと」

カードケースから一枚のカードを抜き取りデッキに入れる

遊威「……こいつを使うかもしれないからな」

エリアル「ご主人様？」

遊威「おっと、今行く」

## 公園

ウィングダ「エリアルちゃん、主様も遅いです」

遊威「ごめんごめん。デッキ選択に時間掛かったから」

双麻「さて、今回は勝たせてもらっぞユーイ！」

遊威「ソーマ！生憎とお前に負けるつもりはないぜ」

『デュエル！！』

ウィンダ「主様、頑張ってください」

ソーサラー「ソーマ、ほどほどに頑張ればいいわよ」

エリアル「ほどほどに……」

双麻「俺は後攻を選ばせてもらっぞ」

遊威「珍しいな。なら俺からだ、ドロ！。俺はモンスターをセット。カードを3枚セットしてエンドフェイズ」

遊威

LP4000

場 モンスター 裏守備1体 魔法・罾 3枚

ウインダ「そういえば主様は何のデッキを使ってるんだっけ？」

エリアル「『エクストラ』だって言ってたよ」

双麻「俺のターン、ドロー！俺はハウンドドラゴを召喚」

ハウンドドラゴ

ATK 1700

DEF 1000

双麻「バトル！ハウンドドラゴで攻撃」

裏守備モンスター

暗黒のミミックLV1

遊威「ミミックの効果発動。カードを一枚ドローする」

双麻「俺はカードを一枚セットしてターンエンド」



双麻

LP4000

場 モンスター

ハウンドドラゴ

魔法・罫 一枚

遊威「ドロー。ふっ、さすがだぜ相棒。俺は『デブリドラゴン』を  
召喚」

デブリドラゴン

ATK 1000

DEF 2000

遊威「早速行くぜ。レベル1暗黒のミニミックにレベル4デブリドラ  
ゴンをチューニング」

『心を宿した兵器』

『侵略を退け平和を築け』

遊威「シンクロ召喚！起動せよ」A・O・J カタストル  
『！』

A・O・J カタストル

ATK 2200

DEF 1200

ウィンダ「いきなりシンクロです！」

エアリアル「『エクストラ』ってそういうことか……」

遊威「バトルフェイズ、カタストルでハウンドドラゴンに攻撃」

双麻「ちっ！」

双麻  
LP 3500

遊威「俺はこれでエンドフェイズだ」

遊威  
LP 4000  
場 モンスター  
A・O・J カタストル  
魔法・罫  
3枚

ソーサラー「シンクロか。でも……」

双麻「俺のターン！ユーイ、そんなダメージじゃすぐに逆転だぜ！」

遊威「そうかな？」

双麻「俺は『メカ・ハンター』を召喚」

メカ・ハンター

ATK 1850

DEF 1000

双麻「畏発動『リビングデッドの呼び声』ハウンドドラゴンを蘇生だ。バトルフェイズ、メカ・ハンターでカタストルに攻撃！」

遊威「カタストルが破壊できない闇属性か。でもわざわざ攻撃力では負けているモンスターで攻撃するとは、『突進』辺りか？」

双麻「残念だったな。手札から速攻魔法発動『リミッター解除』」

遊威「ほう」

カタストル 破壊

遊威

LP 2500

双麻「ハウンドドラゴンでダイレクトアタックだ！」

遊威

LP 800

遊威「畏発動『フリッグのリング』。受けたダメージ分回復して、その回復分の攻守をもった邪精トークンを特色召喚だ」

遊威

LP 2500

双麻「回復させちまったけど、畏とカタストルは処理したぜ。俺はカードを1枚セットしてエンド」

双麻

LP 3200

場 モンスター

ハウンドドラゴン

魔法・畏 1枚

リビングデッドの呼び声

ソーサラー「ソーマはバニラモンスターを多用するのかしら?」

エリアル「初めて見るんですか?ソーマさんのデュエル」

ソーサラー「二回目だけど、初めて見た時のデッキじゃないのよね。コンセプトも全然違うし」

遊威「俺のターン、ドロー。モンスターをセット、カードをセット。ターンエンド」

遊威

LP 2500

場 モンスター

裏守備モンスター

邪精トークン

魔法・罫 3枚

双麻「俺のターン、ドロー!ふむ……俺は『ブラッドヴォルス』を召喚」

ブラッドヴォルス

ATK 1900

双麻「バトル！ブラッドヴォルスで邪精トークンに攻撃だ」

遊威「畏カード『魔法の筒』」

双麻「何！？ぐはっ」

双麻

LP 1600

遊威「俺の伏せカードも警戒したほうがいいぞ」

ウィンダ「ソーマさんいきなり減っちゃいました」

ソーサラー「あれもソーマらしいけどね」

双麻「守ってばっかじゃ勝てねえからな。俺は攻撃あるのみだ、ハウンドドラゴンで裏守備モンスターに攻撃！」

遊威「一応忠告はしたからな。『闇の呪縛』だ」

双麻「ちっ、カードを2枚伏せてターンエンド」

双麻

LP 1600

場 モンスター

ブラッドヴォルス

ハウンドドラゴン

魔法・罫

リビングデッドの呼び声

3枚

遊威「なかなかだな。ドロー。『人喰い虫』を反転召喚、ブラッドヴォルスを破壊」

双麻「いやらしいカードばかり使いやがって」

遊威「戦略だ。『ゾンビキャリア』を召喚。レベル2人喰い虫にレベル2ゾンビキャリアをチューニング。シンクロ召喚！『アームズエイド』」

双麻「アームズエイド？初めて見るカードだ」

遊威「お前好みのカードだぜ。アームズエイドを邪精トークンに装備、攻撃力を1000ポイントアップ。バトル、トークンでハウンドドラゴンに攻撃」

双麻「トラップカード『ガードブロック』だ！」

遊威「だが、アームズエイドを装備したモンスターが相手モンスターを破壊した時、そのモンスターの攻撃力分のダメージを与える」

双麻「ホントに俺好みのカードだな。速攻魔法『御隠居の猛毒薬』！ライフを1200回復する！」

双麻

LP 1100

遊威「ぎりで残したか。カードをセット。エンドフェイズだ」

遊威

LP 2500

場 邪精トークン

魔法・罫 2枚

アームズエイド

闇の呪縛

エリアル「もう少しモンスターを展開した方が良かったんじゃない



かな……」

ウィンダ「このままだと『サイクロン』なんかの除去カードを使われたら結構危ないもんね」

双麻「ドロー！よしっ、これは俺の勝ちが近づいてきたな！俺は『コアキメイルデビル』を召喚！」

コアキメイルデビル  
ATK 1700  
DEF 1000

遊威「また攻撃力の高いモンスターか」

ソーサラー「ソーマ、使うの？」

双麻「おう。トラップカード『正当な血脈』ハウンドドラゴンを蘇生する。いくぜ！俺は二体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築」

遊威「!？」

双麻「エクシーズ召喚！現れる『グレンザウルス』！」

グレンザウルス

ATK 2000

DEF 1000

双麻「見たかユーイ！これが俺の…！」

遊威「モンスター・エクシーズ、なんで!?!」

双麻「あれ？知ってたのか」

遊威「そのカードはまだ存在しないはずなのに!?!」

双麻「存在しない？まあいいや。『DMGP』の大会は話しただろ？」

遊威「あ、ああ。カードショップの大会の」

双麻「お前は出場しなかったからな。そこで俺は優勝したんだ。その時に貰ったのがこの『グレンザウルス』だ」

ウィンダ「なんですかあのカード!？」

エリアル「モンスターエクシーズ……そんなカードがあったなんて!？」

ソーサラー「あら、やっぱりふたりも知らなかったの？」

ウィンダ「ソーサラーさんは知ってたんですか!？」

ソーサラー「ううん、私も初めて見るカードよ」

遊威「……っ!」

双麻「魔法カード『サイクロン』。アームズエイドを破壊だ!」

遊威「ちっ、普通こんな運良く引けるか?」

双麻「バトル! グレンザウルスで攻撃『クラッシュスタンプ』!」

邪精トークン 破壊

遊威

LP 2200

双麻「グレンザウルスの効果発動。相手モンスターを破壊した時、オーバーレイユニットを取り除き相手に1000ポイントダメージ」

遊威

LP 1200

双麻「カードを1枚セットしてターンエンド」

双麻

LP 1100

場 モンスター

グレンザウルス

魔法・罫

リビングデッドの呼び声

正当な血脈

ソーサラー「ソーマの場にはグレンザウルスが、対して遊威君の場はがら空き。勝負ありのようね」

ウィンダ「大丈夫ですよソーサラーさん」

エリアル「ご主人様は、まだ諦めていませんから」

遊威「……ははっ、そろそろお前に見せ場を創らるのもあれだしな。俺もカッコイイことするか」

双麻「どうやってだ？俺にはグレンザウルスがいるんだぞ」

遊威「今度は俺が見せてやる。ドロー！俺は手札1枚をコストに」  
THE トリック『を特殊召喚』

THE トリック  
ATK 2000  
DEF 1000

遊威「手札コストにした墓地のレベルスティーラーの効果、対象はトリックにして蘇生」

双麻「レベル4……」

THE トリック  
レベル5 4

遊威「さーてと、こいつで安全確保だ『トラップ・スタン』」

双麻「げっ……」

遊威「チェーンは？」

双麻「……無しだ」

遊威「じゃあ俺はお前のリビングゲッドをコストに『トラップ・イーター』を特殊召喚」

双麻「シンクロか？」

遊威「言っただろ？『俺もカツコイイことする』って。先を越されたのはあれだから、ここからが本番ってことで」

双麻「……まさか！」

遊威「俺もやらせてもらっさ。2体のモンスターでオーバーレイネツトワークを構築」

エリアル「え!？」

ウインダ「主様も!？」

遊威「エクシーズ召喚。来い『カチコチドラゴン』!」

カチコチドラゴン

ATK 2400

DEF

ウインダ「わあ〜!」

エリアル「エクシーズ召喚……」

ソーサラー「でもこれならまだソーマのライフは……」

遊威「バトル!カチコチドラゴンでグレンザウルスに攻撃!『スト  
ンドアタック』!」

グレンザウルス 破壊

双麻  
LP 700

双麻「ぐっ！だがまだ俺のライフは残ってるぜ！」

遊威「残念だったな双麻。カチコチドラゴンの効果発動！オーバー  
レイユニットを取り除きもう一度攻撃できる」

双麻「なにっ!？」

遊威「ダイレクトアタック、『ストンドスクラッチ』！」

双麻「くっっ!!！」

双麻  
LP 0

勝者 蒼月 遊威

遊威「ふう」



ウィンダ「やったですね主様」

エリアル「あんなカードをつかうなんて知らなかったですよ」

遊威「ああ、ホントはまだ出回ってないカードだから使っちゃまずかったんだけどな」

エリアル「そうだご主人様、時間があればいいんですけど後で私とデュエルしてもらえませんか？」

遊威「いいよ」

ウィンダ「あ、エリアルちゃんずるいです。私も主様とデュエルしたいです〜！」

遊威「わかったわかった、ふたり同時でもいいよ」

エリアル「じゃあがんばろうねウィンダちゃん」

ウィンダ「エリアルちゃん、私達の力を見せてあげましょ」

双麻「はあー、ぜんぜんカッコイイとこ見せられなかった」

ソーサラー「そう？私にはデュエルするときの貴方はカッコよく見えたけど」

双麻<sup>だき</sup>「ソーサラー」

ソーサラー「よしよし、こんなとこでいきなり抱き着いちゃダメよ？」

双麻「ああ、ごめん」

ソーサラー「うふふ」

双麻「ユーイ」

遊威「ん？」

双麻「やっぱりお前は強いな」

遊威「お前こそ」

双麻「そこで、だ。次の全国大会一緒に出ないか？」

遊威「…………お前、それを言う為にデュエルを挑んだんじゃないんだろっな？」

双麻「そ、そんなわけないさ」

遊威「……………まあいいけどよ」

双麻「何！？出場するのか！」

遊威「ああ」

双麻「よっしゃー！これで俺がお前は優勝できる！」

遊威「久々に大会も悪くないだろ」

侵略魔轟も気になるしな…………

遊威VS双麻 構築！オーバーレイネットワーク（後書き）

エリアル「今回の」

ウィンダ「最強カードは」

遊威「と、行きたいところなんだが、今回俺とソーマが使ったデッキは互いに即興で組んだデッキなんだ（作者が）。だからプレイングミスはするわ、やけに盛り上げるわでもなデュエルじゃなかった。だからここで使ったカードの紹介してもあんまり強かったって実感がないと思う」

エリアル「じゃあどうするんですか？もう予告します？」

ウィンダ「早く私達がデュエルできるから予告にします」

遊威「っと、そうだな。それじゃあ予告どうぞ」

エリアル「くっ、流石に強いですね」

ウィンダ「これで勝ちです！」

遊威「……『インヴェルズ』か……」

ブルームーン「『魔轟神』が人間に紛れ込んだだと？」

???「くくく……闘えるのを楽しみにしてるぜ、ユーイ」

次回、『バトルロワイヤル！勝つのは？』

バトルロワイヤル！勝つのは？

遊威「さて、と二人ともデッキはあるの？」

エリアル「ありますよ」

ウィンダ「もちろんです」

それもそうか……。聞くだけ野望だったな

遊威「それじゃあ早速やるっか」

エリアル「はい。私の想いを、カードに込める。全力でいきます！」

ウィンダ「みんなとの絆で勝利を勝ち取ります。楽しいデュエルに  
しましよっ！」

遊威「俺の全てを、持てる力を出し切る。最後まで全力の勝負だ！」

『デュエル！！！』

遊威「ルールはバトルロワイヤルでいいよ」

別に自分の腕を過信してるわけじゃないけど、バトルロワイヤルにしたのは理由がある

エリアル「わかりました。それじゃあ私のターンから。ドロー、私はセットしてカードを2枚セット。ターンエンドです」

エリアル

LP4000

場 モンスター 裏守備モンスター

罨・魔法 2枚

ウィンダ「次は私です。ドロー、セットしてカードを2枚セットでエンドです」

ウィンダ

LP4000

場 モンスター 裏守備モンスター

罨・魔法 2枚

遊威「二人とも全く同じフィールドか」

とは言っても俺もほとんど同じだけど……

遊威「ドロー。俺はカードを2枚セットしてターンエンド」

遊威

LP 4000

場 魔法・罫 2枚

エリアル「セットが2枚だけ？これならどうにか！」

さて、どうする？

エリアル「ドロー。私は『リチュア・エリアル』を反転召喚。私の効果発動！デッキからリチュアと名のついたモンスターカードを手札に加える」

ウィンダ「エリアルちゃんのコンボの基盤が完成かな？」

エリアル「そして、『リチュア・アビス』を召喚。アビスの効果発動。デッキから1500以下の攻撃力のリチュアを手札に。手札から『ヴィジョン・リチュア』を捨ててデッキから儀式魔法を手札に。魔法カード『リチュアの儀式水鏡』を発動！私とアビスをリリースして『イビリチュアテトラオーグル』を儀式召喚！」



遊威「やっぱり速攻儀式してくるか。だけど、罨発動『激流葬』」

『テトラ・オーグル』なら残しておいても有効活用できるんだよね……。ミスしたか？

エリアル「っ……『激流葬』」

遊威「フィールドのモンスターを全て破壊、だよ？」

エリアル「はい……」

ウィンダ「墓地に送られた『ガスタ・ガルド』の効果発動！デッキから『ガスタスクイレル』を特殊召喚」

おっと、『ガルド』だったか……

エリアル「儀水鏡の効果発動。このカードをデッキに戻し、リチュアと名のついた儀式モンスターを手札に加える。カードをセットでターンエンド」

エリアル

場 LP4000

罨・魔法 3枚

ウィンダ「次は私です。ドロ、モンスターをセットしてカードをセットでエンドです」

ウィンダ

LP4000

場 モンスター

ガスタ・スクイレル

裏守備モンスター

罨・魔法 2枚

ふむ…… エリアルもウィンダも、俺の攻撃を狙ってるのか。だった  
ら……

遊威「ドロカード。俺は『ダークリゾネーター』を召喚。バトル  
フェイズ、エリアルに直接攻撃」

エリアル「やっぱりそうきますよね。罨発動『魔法の筒』。私の受  
けるダメージを反射します」

遊威「おっと、そうきたか。カードを1枚セットしてエンドフェイ  
ズ」

遊威

LP 2700

場 モンスター ダークリゾネーター

魔法・罨 2枚

エリアル「ドローフェイズ。くっ、終わりです」

エリアル

LP 4000

場 モンスター 裏守備モンスター

魔法・罨 2枚

ウインダ「ドローです。私は『ガスタの巫女 ウインダ』を召喚、そしてチューニングです！」

ん？

ウインダ「羽ばたけ『ダイガスタ・ファルコス』！」

ダイガスタ・ファルコス

ATK 1400

DEF 1200

ウィンダ「ファルコスの効果で攻撃力が6000ポイントアップです」

遊威「ファルコスか。結構厄介だな……」

ウィンダ「そういう事です。トラップカード『ガスタへの祈り』。墓地のガルドとスクイレルをデッキに戻して墓地から私を特殊召喚です！」

エリアル「これでファルコスの攻撃力は2000、ウィンダちゃんの攻撃力もダークリゾネーターを上回ってる！」

ウィンダ「バトルです、ファルコスでダークリゾネーターを攻撃『疾風航路』」

遊威「おっと、させないぜ。畏発動『魔法の筒』」

ウィンダ「あわわわ！」

ウィンダ

LP 2000

遊威「流石にまとめて喰らったら危ないからね」

ウィンダ「でも、まだ私の攻撃が残ってます！私でリゾネーターを攻撃です！」

遊威

LP 2400

ウィンダ「これでターンエンドです」

ウィンダ

LP 2000

場 モンスター

ダイガスタ・ファルコス

ガスタの巫女 ウィンダ

罨・魔法 1枚

遊威「さて……ドロ。ダークリゾネーターを守備表示にしてカードを1枚セット。ターンエンド」

遊威

LP 2400

場 モンスター

ダークリゾネーター

罨・魔法 2枚

エリアル「いきます！ドロー！やった、畏発動『儀水鏡の瞑想術』  
手札の『リチュアの儀水鏡』を見せます。墓地からアビスと私を手  
札へ」

遊威「テトラオーグルか？」

エリアル「違いますよ。手札から『リチュアの儀水鏡』を発動！手  
札の『イビリチュア・テトラオーグル』と『リチュア・アビス』を  
リリース。きて、『イビリチュア・ソウルオーガ』！」

イビリチュア・ソウルオーガ

ATK 2800

DEF 2800

ウインダ「あゝ……ソウルオーガだ……」

遊威「そっか、ガスタに対してはメタカードだっけ」

エリアル「いきますよ、ソウルオーガの効果発動！手札から私を墓  
地へ送り、ダークリゾネーターをデッキへ『邪鏡転回』」

遊威「おおっと、こいつは……」

エリアル「バトルフェイズ！ソウルオーガで直接攻撃『ネーベントクロウ』」

遊威「罨カード『ガード・ブロック』。戦闘ダメージを0にしてカードを1枚ドローする」

エリアル「くつ、流石に強いですね。ターンエンドです」

エリアル

LP 4000

場 モンスター

イビリチュア・ソウルオーガ

罨・魔法 1枚

ウィンダ「ふふふ、私のターンです。ドロー！いかせてもらいますよ主様」

遊威「じゃあ見せてもらおうよ」

ウィンダ「私は『ガスタ・スクイレル』を召喚。セットカードもないますから、これで勝ちです！ファルコスで攻撃！」

遊威「まあね。普通はセットカードがないんだから勝ちだけど、こ  
ういうカードもあるんだよ。手札から『バトルフェーダー』を特殊  
召喚！バトルフェイズを終了させる」

ウィンダ「うっ……手札発動のカードですか……うん、ターンエ  
ンドです」

ウィンダ

LP 2000

場 モンスター

ダイガスタ・ファルコス ガスタ・スクイレル

ガスタの巫女 ウィンダ畏・魔法 1枚

遊威「さあーて、俺の全力見せるぜ！魔法発動『モンスターゲート』  
、1枚目『ダーク・アームドドラゴン』2枚目……」

何枚目に召喚できるかな？

遊威「5枚目『ダーク・クルセイダー』を特殊召喚。ごめんね、魔  
法発動『ブラックホール』。フィールドの全てのモンスターを破壊  
する」

ウィンダ「ここで全体除去を使いますか……」



エリアル「でも、それはご主人様も同じだよ」

遊威「もちろん。それじゃあ最後の魔法発動『名推理』。レベルを宣言してもらうわけだけど、二人で相談していいよ」

エリアル「『名推理』……この流れでくると上級モンスターを狙ってるよね？」

ウィンダ「多分間違いないと思う。そして今までのカードをみると、ダークモンスターが多いから8かな」

エリアル「それじゃあ8で」

遊威「8か、OK。1枚目『ダーククリエイター』2枚目……」

ダークホルスを考えて8にしたのか。でも、俺の狙いは……

遊威「5枚目『終焉の精霊』を特殊召喚」

終焉の精霊

ATK？

DEF ?

遊威「『終焉の精霊』の攻撃力は除外されている闇属性モンスター  
1体につき300ポイントアップする」

エリアル「でも今は1枚も除外されていないから0ですね」

ウィンダ「『ネクロフェイス』があつたわけでもなかったはず……  
どうやって除外するんです？」

遊威「簡単さ。じゃあいくよ、『闇王プロメテイス』を召喚」

闇王プロメテイス

ATK 1200

DEF 800

遊威「プロメテイスの効果、俺の墓地の闇属性モンスターを全て除  
外する」

エリアル「全て!?!」

ウィンダ「そのための『名推理』と『モンスターゲート』ですか」

遊威「俺が除外したのは7枚。よって『終焉の精霊』は2100、  
『闇王プロメテイス』は4000になるよ。バトルフェイズ、『闇  
王プロメテイス』でエリアルに攻撃」

エリアル「畏発動『ポセイドンウェーブ』！」

ウィンダ「じゃあチェーンして『ガスタのつむじ風』」

遊威「やっぱりね。畏だとおもったよ、チェーン！『トラップスタ  
ン』」

エリアル・ウィンダ「えっ!?!」

遊威「バトル続行」

エリアル「きゃあ!」

エリアル  
LP 0

遊威「『終焉の精霊』でウィンダに攻撃」

ウィンダ「負けちゃったです……」

ウィンダ

LP 0

勝者 蒼月 遊威

遊威「ふう、二人ともいいデュエルだったね」

エリアル「途中まではよかったのに……」

ウィンダ「楽しかったです」

遊威「うーん……デュエルしてみても感じたんだけど、エリアルは勝ちを急ぎ過ぎてると思っただよね」

エリアル「勝ちを急ぎ過ぎてる、ですか……」

遊威「ウィンダは勝ち負けよりも楽しむって気持ちが強いからミス

が多かったね」

ウィンダ「そうでした？」

遊威「それでも、勝ちたい気持ちも楽しむ気持ちもデュエルをする上でとっても大切だから良いと思う」

エリアル「はい」

ウィンダ「主様とくっても強かったです。これなら大会でも優勝ですよ！」

遊威「そう、それなんだよな」

エリアル「大会がどうかしたんですか？」

遊威「今回大会に出るのは『侵略魔轟』を見付ける為でもあるんだよ」

ウィンダ「そっか！人間界に来てるんだからエネルギーが高いデュエリストに憑いてるんですね」

遊威「エナジー？そういうえば殉教者もそんな事言ってたけど、エナジーって何？」

エリアル「デュエルエナジーの略称です。エナジーは特別なデュエリスト程高くなります」

ウィンダ「特別っていつても精霊が見えるとかですけどね」

遊威「じゃあ子供の頃から精霊が見えてた俺はエナジーが高いわけだ」

ウィンダ「そういう事です」

遊威「エナジーか……でも『侵略魔轟』はエナジーを集めて何するつもりなんだろうな？」

エリアル「ご主人様は魔轟神と氷結界の伝説を知っていますか？」

遊威「いや、知らないと思う」

エリアル「三年前の戦いの時の伝説らしいんですけど、何かに役立つと思つて。『ある時、氷結界に現れし者がいた。その者は氷結界に封印されし神槍を冠する龍を従え、皆はその者を氷結の王と呼ん

だ』。ええつと……」

ウィンダ「『やがて新たな力を得たフレムベル達によって侵略者、ワームは滅びた。しかし復活した魔轟神達によって更に追い詰められる。同盟を結んだ種族の中で裏切りが発生し、皆が絶望していた』だよ」

エリアル「そうだったね。『その時、誰も封印を解けなかった最後の神槍を氷結の王が解き、魔轟神の王を倒した。その後、氷結の王は姿を消し魔轟の脅威は取り払われた』。これが伝説です」

遊威「二人ともご苦労さん。それにしても随分大事になってたんだな」

ウィンダ「そしてその後から一年程でインヴェルズが現れて、再び闘いになったんです」

遊威「……『インヴェルズ』か……魔轟神については多少の知識があったけど、インヴェルズについては全く知らないんだよね。カードを持つてる奴もいないし」

ウィンダ「インヴェルズ達はヴァイロンを核としたガスタ・リチュア・ラヴァル・ジェムナイトの連合軍でやっと勝てた程なんです」

エリアル「確かにあの時オメガの裁きで倒したはずなのに時空を越えて、それも魔轟神と手を組むなんて……」

遊威「そっか、共通して滅んだのか。だからエネルギーを集めて復活しようとするってことか」

エリアル「はい、おそらくそうだと思います」

ウィンダ「オメガの裁き、あの時は負けちゃうかと思ったなあ……」

エリアル「でも勝てたよね」

ウィンダ「氷結の王さんが見付ければ、魔轟神はどうにかなると思うです」

遊威「んー……氷結の王か。確かに仲間になつてくれれば即戦力だけど、何処にいるか見当もつかないんだよね」

エリアル「ご主人様のお友達に『氷結界』を使う人はいないんですか？」



遊威「氷結界か……そもそも使ってるのを見た事が無い。『フレムベル』や『ドラグニティー』ならいるんだけどな……」

ウインダ「でも大丈夫です！主様なら氷結の王さんがいなくても勝てますよ！」

遊威「ふふふつ、ありがとう」

後でまた行くか……

氷結界

ブルームーン「どうだ、『侵略魔轟』の動きは」

軍師「はいっ、やはり『霞の谷』の進行が激しいようで再びワームが現れました」

『霞の谷』……

ブルームーン「ふむ、『霞の谷』に何かあるのか？」

武士「今のところ何かあるわけでは……いや？そういえば『魔轟神』を目撃しました」

ブルームーン「『魔轟神』を？それでそいつは何処に……」

武士「はっ……人間界に潜ったと思われます」

ブルームーン「『魔轟神』が人間界に？」

……思った通りだ。やっぱり大会に参加してよかったぜ

ブルームーン「そうか。またなんかあったら知らせろ」

軍師「はっ」

もう封印を解くか？……いや、まだ早いか

背後から俺と同じくらいの身長で髪と瞳が蒼の男が話しかけてきた

男「ねえユーイ、僕以外は解放しないの？」

ブルームーン「俺もそうしようと思ったんだけど、下手に封印解いて『侵略魔轟』を刺激するのは得策じゃない。わかったか、ブリユーナク？」

ブリユ「ああ……」

それにしても何だ？この胸騒ぎは……何か引つ掛かるな……

その頃・霞の谷

????」くくく……闘えるのを楽しみにしてるぜ、ユーイ」

闇夜に混じり、微かに聞こえる声が告げていた

バトルロワイヤル！勝つのは？（後書き）

エリアル「今回の」

ウィンダ「注目のカードは」

『闇王プロメティス』

遊威「召喚に成功した時に墓地の闇属性モンスターを任意の枚数除外でき、除外した枚数1枚につき400ポイント上昇と場合によってはフィニッシャーにもなれる攻撃力だ。ただし、そのターンのエンドフェイズまでだから、ライフを削りきれない場合は1200に戻るってというのがきびしいかな」

エリアル「その場合は『神秘の中華鍋』等でライフゲインにすれば結構な量が回復できますね」

遊威「それと俺がやったみたいだに『終焉の精霊』と合わせれば、こちらにもフィニッシャーになりえる攻撃力になる」

ウィンダ「『終焉の精霊』が破壊されれば除外されてるモンスターが墓地へ戻るから、『ダークバースト』で手札に戻せるカードがあるかもです」

遊威「つと、なんだか久しぶりにまともな紹介した気がする。それと今回からこのコーナーの名前が少し変わりました」

ウィンダ「最強カードから注目のカードに変更です」

エリアル「それでは次回予告どうぞ」

遊威「前座はここまでだ」

双麻「こ、こいつ……強え……」

遊威「まさか……!?!」

????「さあユーイ!デュエルだ!」

次回『大会の中の『魔轟神』』

遊威「なんでお前が……答えろ!!」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0224w/>

---

リチュアとガスタと氷結界と

2012年1月1日03時45分発行